

第39号(平成22年3月)

やっぱり阿弥陀さん

本山だより

## 今年も本山春の法要が勤まります。 皆様どうぞお参り下さい。

今年の春の法要では、第25世真怨上人200回忌法要(14日朝座)と第28世本常上人100回忌法要(15日朝座)を厳修致します。境内にてパネル展も開催されます。

### 春の法要日程表

4月13日(火)

午前7時 晨 朝  
午前10時 朝 座  
午前10時40分ごろ 御堂説教  
午後2時 昼 座  
午後2時40分ごろ 御堂説教

4月14日(水)

午前7時 晨 朝  
午前10時 朝 座  
午前10時40分ごろ 御堂説教  
午後2時 昼 座  
午後2時40分ごろ 御堂説教

4月15日(木)

午前7時 晨 朝  
午前10時 朝 座  
午前10時40分ごろ 御堂説教  
午後2時 昼 座  
午後2時40分ごろ 御堂説教

※4月13日朝座後にご門主ご親教がごさいます。

※法要は各座とも約40分を、御堂説教は各法座とも約30分を予定しています。



## 真宗興正派 本山興正寺

〒600-8261 京都市下京区堀川通り七条上ル  
TEL075-371-0075(代)・FAX075-371-8509  
ホームページアドレス <http://www.koshoji.or.jp>

## 平成23年 法要期日とテーマ

### 第1期 「道を求めて」

4月20日(水) 午後2時から速夜  
4月21日(木) 午前10時から日中 午後2時から速夜  
4月22日(金) 午前10時から日中 午後2時から速夜  
4月23日(土) 午前10時から日中 午後2時から速夜

### 第2期 「響きあういのち」

5月24日(火) 午前10時から日中 午後2時から速夜  
5月25日(水) 午前10時から日中 午後2時から速夜  
5月26日(木) 午前10時から日中 午後2時から速夜

### 第3期 「共に歩む」

10月25日(火) 午前10時から日中 午後2時から速夜  
10月26日(水) 午前10時から日中 午後2時から速夜  
10月27日(木) 午前10時から日中 午後2時から速夜  
10月28日(金) 午前10時から日中

### 第4期 「興隆正法～仏法ひろまれ～」

11月25日(金) 午前10時から日中 午後2時から速夜  
11月26日(土) 午前10時から日中 午後2時から速夜  
11月27日(日) 午前10時から日中 午後2時から速夜  
11月28日(月) 午前10時から日中

## 霊山本廟宗祖大遠忌法要ご案内

平成22年3月18日(木) 記念事業円成法要、  
春季永代経法要を兼ねる

平成22年4月16日(金) 宗門各界代表による  
大遠忌法要

平成22年8月15日(日) 孟蘭盆会を兼ねる

平成22年9月20日(月) 秋季永代経法要を兼ねる

平成22年11月29日(月) 報恩講を兼ねる

いのち・つながり・よろこび

宗祖親鸞聖人750回大遠忌法要



# 本常上人ご事績

本常上人は、嘉永5（1852）年6月8日、父第27世本寂上人の六男としてご誕生されました。慶応2（1866）年3月4日にお得度され錦丸から憶念院と改称し、富田林御坊へと入寺されました。明治5（1872）年、兄広厳上人のご示寂により法嗣となられ、明治10（1877）年に本寂上人のご示寂されると興正寺第28世を継職されました。法衣堂班の制定や宗制寺法の制定、宗会制度の導入や靈山本廟の創設、さらには鹿児島別院や札幌別院の開設、子弟教育機関である円頓学寮の設立など別派独立後の派内整備に尽力されました。明治35（1902）年、阿弥陀堂などの諸堂を焼失しますが、明治43（1910）年に阿弥陀堂の起工式を挙行し、明治45（1912）年に御影堂を再建されています。同年4月には親鸞聖人650回忌を厳修されましたが、11月19日、61歳にしてご示寂されました。



本常上人

# 真恕上人ご事績

真恕上人は、寛政3（1791）年10月15日、父香厳様（第23世寂聴上人二男）と母頼子様（関白一条輝良公女）の長男としてご誕生されました。寛政7（1795）年、第24世法高上人のご示寂にともない、有髪にしてわずか5歳で興正寺第25世の法灯を継承。10歳になると秀子様（関白鷹司政熙公女）とご結婚し、鷹司家との関係を深められ、文化元（1804）年12月21日には京都東山妙法院においてお徳度されています。文化7（1810）年、3歳の準君（第27世本寂上人）を鷹司家より預かり法嗣（後継ぎ）とされますが、準君が幼年であられたことや幕府の斡旋によって当時対立関係にあった西本願寺と和解したことなどにより、西本願寺寂如上人の孫撰生様（第26世本誓上人）を養子として迎え入れられ法嗣としていきます。文化8（1811）年、120年以上続いた御堂再建の志願が成就し、落慶法要と併せて親鸞聖人550回忌を厳修されるなど、山勢の維持に尽力されましたが、文化9（1812）年5月6日、22歳にしてご示寂されました。



真恕上人